

生徒指導通信

令和8年7月16日
熊野町立熊野東中学校
生徒指導部

～1学期の歩みを自信に変えて、次なるステップへ～

桜が舞う4月の入学・進級から始まり、3ヶ月半が過ぎようとしています。皆さんにとって、この1学期はどのような時間だったでしょうか。今年度の熊野東中学校のキーワードは「やり切る」です。大きな行事や日々の生活の中で、皆さんは自分自身の可能性を広げるために、一歩ずつ進んできました。今回は1学期を振り返り、皆さんが手に入れた「成長」を確かめてみましょう。



1. 「やり切る力」が形になった数々の行事

この1学期、皆さんは多くの場面で「自分たちで学校を創る」姿を見せてくれました。

○体育祭：挑戦には「失敗」がつきもの

リレーでバトンを落としたり、競技中に転んでしまったりすることもありました。しかし、それは全力を出し切ろうとした「挑戦した証」です。今年の体育祭では、「失敗した人を絶対に笑わない、責めない」という約束を大切に、仲間を励まし合う「礼をつくす」姿が見られました。

○生徒総会：自分たちの「声」で未来を創る

生徒総会では、学校をより良くするために何が必要かを自分たちで考え抜きました。自分の意見が学校を動かすという「自治」の面白さを感じられたのではないのでしょうか。

○最後の大会：有終の美を飾る

多くの3年生にとって部活動の集大成となる大会がありました。仲間と声を掛け合い、最後まであきらめない姿勢を見せた皆さんの「やり切る力」は、後輩たちの目にしっかりと焼き付いています。



2. 日常の「当たり前」を振り返る（東中三訓）

行事だけでなく、毎日の「当たり前」をやり切ることも大切にしました。

○【時】スタートの瞬間を大切に

「8:15入室・8:20着席」のルールを徹底できましたか？

朝の落ち着いた時間をやり切ることが、一日をスムーズに始める秘訣です。

○【場】場を清める

自分の周りや教室の整理整頓、無言清掃など、環境を美しく保つ「東中生の美学」を意識できたでしょうか。

○【礼】相手への敬意

相手からの反応を待つのではなく、自分から進んで「おはようございます！」と挨拶することができましたか。

3. 「いじり」の怖さ：笑っているから大丈夫、という嘘

学級の絆が深まった一方で、仲が良くなったからこそ「言葉の距離感」が近くなりすぎてはいませんか？ここで、あるエピソードを通して「いじり」の怖さを考えてみましょう。

【Aくんのエピソード】

クラスに、いつもみんなを笑わせている、いわゆる「いじられキャラ」のAくんがいました。周りの友達「Aなら何を言っても笑って返してくれるし、大丈夫」と思い、毎日のように「どんくさいな！」「その顔、ウケるわ！」と声をかけていました。Aくんも一緒に笑い、自分から面白いことを言って場を盛り上げていました。

しかし、本当のAくんの心は違いました。Aくんが笑っていたのは、みんなが大好きで、クラスの空気を壊したくなかったからです。みんなが投げた軽い言葉は、Aくんの心に小さな針のように刺さり続け、少しずつ「自分はダメな人間なんだ」という思いを募らせていきました。ある朝、ついにAくんは学校へ行く力がなくなってしまいました。周りが「これくらい大丈夫」と思っていた言葉が、Aくんの大切な毎日を奪ってしまったのです。

深刻ないじめのきっかけの8割近くは、こうした「冷やかshi・からかい」から始まっています。大切なのは「いじめた側の意図」ではなく「受けた側がどう感じているか」です。相手が無理をして笑っていないか、自分の言葉が相手の力を失わせていないか、今一度自分自身の足元を見つめ直してみましょう。

4. 心の「SOS」は勇気のしるし

一生懸命に頑張っているからこそ、心に疲れが溜まることもあります。

○「相談」は自律への一歩

ひとりで解決するのが大人ではありません。困ったときに「助けて」と言えることは、自分を大切にするための立派なスキルです。

○チーム熊野東

先生、スクールカウンセラー、相談フォームなど、皆さんの味方はたくさんいます。夏休み中もひとりで抱え込まないでください。



5. SNSの中でも「確かなつながり」を

夏休みはスマホやSNSを使う時間が増える人もいかもしれません。そこには「文字だけのすれ違い」という罠があります。

○想像力を働かせる

送信ボタンを押す前に、「相手はどう受け取るか」を最後まで考えましょう。

○直接伝える大切さ

SNSは便利な道具ですが、直接会って話すことも大切にしてください。



「当たり前」のその先へ。

1 学期の成長を自信に変えて、

最高の夏休みを「やり切って」いきましょう！